

グラビア	地域を支える人 松野良紀さん・岐阜県岐阜市	1
発掘！地域の希望のタネ	〈大手まんぢゅう〉岡山県岡山市	5
給食のじかん	〈十勝野菜のオベリベリ煮込み〉北海道帯広市	日高美樹 6
書評	木下 斉 著『凡人のための地域再生入門』	菅原敏夫 8
焦点	裁決の拘束力適用は暴挙 —辺野古設計変更訴訟最高裁判決の問題点	武田真一郎 10

特集

## 地方移住・定住政策のいま

「田園回帰」と農山漁村・都市との新しい関係	筒井一伸	16
地方自治体による移住政策の現状と3つの課題	伊藤将人	26
地方移住の新たな動向とその影響 —移住のミスマッチはどうか	宇都宮千穂	35
教育の島・広島県大崎上島町の取り組み	川上 優	44
「北アルプスの麓で暮らす」 定住促進施策について—長野県大町市の取り組み	棚澤千代子	50
手厚い子育て支援・若者むけの雇用で 移住促進—北海道西興部村の取り組み	有我大悟	57

地域おこし協力隊が行く!	第8回 島根編①雲南市 体と食と農のつながるスペース「つちのと舎」と 地域おこし協力隊のサポートの取り組みから	三瓶裕美	62
結びつなげる!しまね自治研	地方自治を語り合おう! ～みなさんを心よりお待ちしております～	須田晋次	68
自治研活動レポート	「プチ自治研」からはじめる自治研活動の再開 —秋田県本部	加藤俊幸	70
	自治研センターの機関誌案内		61
	次号予告・編集部から		72



「地元がヤバイ...と思ったら読む  
凡人のための地域再生入門」  
ダイヤモンド社 一七〇五円

木下 斉 著

地域再生の物語

地域再生も「移住・定住」に結果が現れる。本書も小さなUターンから始まる地域再生の「物語」である。瀬戸淳（三三歳）、東京でメーカーの会社員、実家はある地方都市の商店。父が他界し、母は店をたたもつとする。帰省すると、ヤバイ（#地元がヤバイ本）。



注（黄色い地に印字）、一七のコラム（薄黄色い地）はほぼ独立したキーワード集。小説の装いは著者の工夫がちよつとした悪戯。

さて、瀬戸は高校の同級生と再会、小さな決断と少数の仲間でシャッター街をなんとかしようとして動き出す。成果は小さな共同出資会社。スクールや情報配信、各地の事業への投資を行う事業を軌道に乗せる。現実の著者木下斉はアラフォーで押しも押されぬ地域再生の第一人者。本書はその成功の自慢話ではなく、失敗に次ぐ失敗、仲間の離反、悪評、批評家たちの遠吠え、地方再生の壁という内容になっていて、失敗こそが真に役立つという著者の信念に支えられている。

補助金のガン  
とくに注意深く批判されているのが役所である。見出しを拾うだけでも、役所の誤算、お役所仕事、その場しのぎの地

域おこし協力隊、名ばかりコンサルタン、小さな成果・大きな態度、役所の事業がうまくいかない構造的理由、見せかけの地方分権、よそ者・若者・馬鹿者のウソ、血税投入、とキリがない。本書の帯に「補助金が地方のガンなんや!」とあつた時には正直手が引けた。

それでも本書をお勧めする。失敗に率直で、変更には戸惑いが無い。役に立つ、誰にとつても。表題の「凡人のための」というのは嫌味な感じがするが、真意は、地元のスーパーマンは来ない、必要ないということ。サクセスストーリーや心温まる物語と関係のない「凡人」（ただし、足を一歩前に出した）こそが必要条件だ。

本誌は地域おこし協力隊の連載を行っている。役所が変わるといふ本（豊岡メソッド）日本経済新聞出版 もある。本書とどちらが勝つだろうか。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員